

COM(超短期経済予測モデル)

編集 稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)

内容に関するお問い合わせは下記まで

e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(月次)予測(2016年1月)

ポイント

●1月に発表されたデータの特徴

- ▶12 月データの特徴は、「雇用環境は改善しているが、暖 冬の影響もあり家計消費や鉱工業生産が低迷している」と いえよう。
- ▶12 月の完全失業率は 3.3%となった。2015 年平均は 3.4%と 1997 年以来 18 年ぶりの低水準。
- ▶雇用環境は改善が続いているが、家計消費は低迷している。10-12 月期の実質消費支出は前期比-1.9%減少し、2 四半期ぶりのマイナスとなった。
- ▶10-12 月期の鉱工業生産指数は前期比+0.6%上昇し 3 四半期ぶりのプラスだが、緩やかな回復にとどまった。同期の資本財出荷指数は前期比-1.7%低下し4四半期連続のマイナスとなった。設備投資も低調である。
- ▶一方、10-12 月期の実質純輸出は実質 GDP を前期比 0.5%程度押し上げたようである。

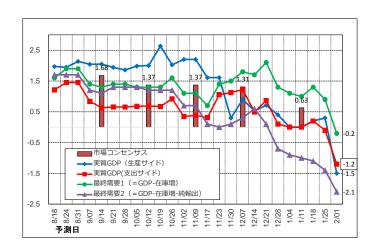
●10-12 月期成長率予測の動態

- ▶12 月データを更新した予測は一層悪化した。民間最終消費支出、民間住宅、民間企業設備、純輸出の予測値はいずれも下方修正された。
- ▶今週の CQM(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成 長率を前期比-0.3%、年率-1.2%と予測。先週の予測から 大幅下方修正された。図表 1 参照。
- ▶国内需要は実質 GDP 成長率に対して前期比-0.7%ポイントのマイナス寄与、実質純輸出は同+0.5%ポイントのプラス寄与。実質最終需要(在庫純増と純輸出を除く)は前期比年率-2.1%の大幅マイナス成長となっている。

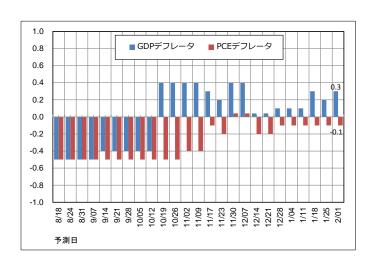
●10-12 月期インフレ予測の動態

- ▶12 月の全国消費者物価コア指数は前年比+0.1%上昇した。2 カ月連続のプラス。エネルギーを除く指数では消費者物価は緩やかな回復基調となっている。
- ▶今週の CQM は 10-12 月期の民間最終消費支出デフレータを前期比-0.1%と予測。交易条件は前期比改善するため、GDP デフレータを同+0.3%と予測する(図表 2 参照)。

図表1 CQM 予測の動態: 実質 GDP、最終需要成長率 2015 年 10-12 月期 (%,前期比年率)



図表 2 CQM 予測の動態: インフレーション 2015 年 10-12 月期 (%,前期比)



<10-12 月期経済、外需の改善は内需の悪化を相殺できず>

【1月に発表されたデータの特徴】

1月末にかけて 10-12 月期 GDP 説明する基礎データがほぼ 発表された。12月データの特徴は、「雇用環境は改善が続いて いるが、暖冬の影響もあり家計消費や鉱工業生産が低迷している」といえよう。

12月の完全失業率(季節調整済み)は3.3%となり、前月から 横ばい。結果、2015年平均は3.4%と1997年以来18年ぶり の低水準となった。年齢階級別に失業率(原数値)を見れば、12 月は25-34歳で4.7%となり0.9%ポイント前年から上昇した。 2カ月連続の上昇である。若年層がよりよい職を求めて退職し ているようである。12月の有効求人倍率(季節調整済み)は 1.27倍となった。前月比+0.02ポイント上昇し、1991年12 月(1.31)以来の高水準である。2カ月連続の改善。

雇用環境は改善が続いているが、家計消費は低迷している。家計調査報告によれば、暖冬の影響もあり 12 月の実質家計消費支出は前年比-4.4%減少し、4 カ月連続のマイナスとなった。2015 通年では 9 カ月が前年比マイナスである。季節調整値でみれば、前月比+1.0%増加し 4 カ月ぶりのプラスとなったが、10-12 月期の実質消費支出は前期比-1.9%減少し、2 四半期ぶりのマイナスとなった。

12 月の生産指数は前月比-1.4%低下し 2 カ月連続のマイナス。結果、10-12 月期は前期比+0.6%上昇し 3 四半期ぶりのプラスとなったが、緩やかな回復にとどまった。2015 年平均の鉱工業生産は前年比-0.8%低下し、2 年ぶりの減産となった。出荷指数を財別に見れば、12 月の資本財指数は前月比-3.6%低下した。2 カ月連続のマイナス。10-12 月期は前期比-1.7%低下し 4 四半期連続のマイナスとなった。設備投資も低調である。

一方、純輸出は好調である。12月の貿易収支は1,402億円と2カ月ぶりの黒字となった。季節調整値は366億円と2カ月連続の黒字となり、前月比+63.9%拡大した。結果、10-12月期の貿易赤字は5,199億円(年率ベース)となり前期比-86.8%減少した。数量ベースで10-12月期を前期と比較すれば(季節調整値)、輸出数量指数は+1.7%、実質輸出指数(日銀ベース)は+2.7%上昇。一方、輸入数量指数は-0.7%、実質輸入指数(日銀ベース)は-1.1%低下した。10-12月期の実質純輸出は実質GDPを前期比0.5%ポイント程度押し上げたようである。外需は好調であるが内需の落ち込みを相殺できていない。

【10-12 月期成長率予測の動態】

12 月データの更新の結果、予測は一層悪化した。民間最終消費支出、民間住宅、民間企業設備、純輸出の予測値はいずれも下方修正された。このため、今週の CQM(支出サイド)は、10-12 月期の実質 GDP 成長率を前期比-0.3%、年率-1.2%と予測。先週の予測から大幅下方修正となった。国内需要は実質GDP 成長率に対して前期比-0.7%ポイントのマイナス寄与、実質純輸出は同+0.5%ポイントのプラス寄与。実質最終需要(在庫純増と純輸出を除く)は前期比年率-2.1%の大幅マイナス成長となっている。図表 1 参照。

10-12 月期の国内需要を見れば、実質民間最終消費支出は前期比-0.7%となる。実質民間住宅は同-5.0%減少し、実質民間企業設備は同+0.6%小幅増加にとどまる。民間需要はほぼ総崩れである。実質政府最終消費支出は同+0.4%増加し、実質公的固定資本形成は同-3.4%減少する。公的需要は公的固定資本形成が減少するためほぼ横ばいとなる。結果、国内需要は実質 GDP 成長率(前期比-0.3%)に対して-0.7%ポイントとマイナス寄与となった。

外需を見れば、財貨・サービスの実質輸出は同+3.0%、実質輸入は同+0.4%、それぞれ増加する。

【10-12 月期インフレ予測の動態】

12 月の全国消費者物価コア指数は前年比+0.1%上昇した。 2 カ月連続のプラス。うち、エネルギー価格が 12 カ月連続で下落しており、消費者物価全体を 1%ポイント程度引き下げている。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除くコアコア指数は同+0.8%となり、27 カ月連続のプラス。エネルギーを除く指数では消費者物価は緩やかな回復基調となっている。2015 年平均ではコア指数は、3 月までは消費増税の影響もあったため前年比+0.5%となった。3 年連続のプラス。

今週の CQM は民間最終消費支出デフレータを、10-12 月期に前期比-0.1%と予測する。また国内需要デフレータを同-0.1%と予測。10-12 月期の交易条件は前期比改善するため、GDP デフレータを、同+0.3%と予測する。インフレ動態を見れば、図表 2 が示すように、民間最終消費支出デフレータは(幾分)同マイナスとなっているが、マイナス幅は縮小傾向にある。また交易条件は引き続き改善するため、物価の総合的な指標である GDP デフレータは 5 期連続の上昇を予測している。

1月の主要経済指標

(イタリックは今週の CQM 予測で更新されたデータ)

1/29:

鉱工業指数: (12 月速報値)

生産: 96.5 (-1.4%前月比) 出荷: 94.8 (-1.7% 前月比)

在庫: 112.3 (+0.4% 前月比)

労働力調査: (12 月)

就業者数: 6403 万人, +45 万人 前月比 失業者数:222 万人, +5 万人 前月比 失業率: 3.3%, 0.0%ポイント 前月比

一般職業紹介状況: (12 月)

有効求人倍率: 1.27, +0.02 ポイント 前月比 家計調査報告: (12月 2人以上世帯:消費支出)

名目:+0.9% 前月比, -4.2% 前年比 実質:+1.0% 前月比, -4.4% 前年比

新設住宅着工: (12月)

新設住宅着工数: (-2.2% 前月比, -1.3% 前年比) 工事費予定額: (-5.1% 前月比, -2.2% 前年比)

全国消費者物価指数: (12月)

総合: 103.5 (0.0% 前月比, +0.2% 前年比) コア: 103.3 (+0.1% 前月比, +0.1% 前年比)

東京都区部消費者物価指数: (1 月)

総合: 101.3 (-0.3% 前月比, -0.3% 前年比) コア: 101.1 (-0.2% 前月比, -0.1% 前年比)

1/28:

商業動態統計: (12月 速報値)

小売業: (-0.2% 前月比, -1.1% 前年比)

製造業部門別投入・産出物価指数: (12 月)

投入物価: -8.6% 前年比 産出物価: -4.0% 前年比

貿易統計: (通関ベース:12月)

貿易収支: 1,402 億円 (+63.9% 前月比, - 前年比)

輸出: (-3.8% 前月比, -8.0% 前年比) 輸入: (-4.0% 前月比, -18.0% 前年比)

1/26:

企業向けサービス価格指数: (12月)

総合指数: 103.1 (+0.1% 前月比, +0.4% 前年比)

1/22:

每月勤労統計: (11月確報値)

現金給与総額: 0.0% 前年比 総実労働時間:-0.1% 前年比

1/21:

産業活動指数: (11 月)

全産業:102.3(-1.0% 前月比) 建設業:108.1(-3.0% 前月比)

1/18:

鉱工業指数: (11月 確報値)

生産能力指数: 95.2, 0.0% 前年比稼働率指数: 98.6, -0.1% 前月比

第3次產業活動指数: (11月)

第3次產業:103.1 (-0.8% 前月比)

建設総合統計: (11月)

民間建築: 非居住: (7,886 億円, +7.0% 前年比) 公共工事: (2 兆 1,325 億円, -5.1% 前年比)

1/15:

消費総合指数: 106.5 (11月 前月比-1.2%)

公共工事請負: (12月)

件数: (21,092件, -7.2% 前年比) 金額: (8,086億円, -9.6% 前年比)

1/14:

民間コア機械受注: (11月 前月比-14.4%) 情報サービス業売上高: (11月 +2.0% 前年比)

国内企業物価指数: (12月)

企業物価: 101.1 (-0.3% 前月比, -3.4% 前年比) 輸出物価: 108.4 (-0.9% 前月比, -6.9% 前年比) 輸入物価: 105.5 (-2.7% 前月比, -18.5% 前年比)

1/12:

消費者態度指数: 42.7 (12 月, +0.1 前月差)

景気ウォッチャー調査: (12月)

現状判断 DI: (48.7, +2.6 前月差) 先行き判断 DI: (48.2, 0.0 前月差)

国際収支: (11月)

経常収支: 1 兆 1,435 億円

(-4.7% 前月比, +159.8% 前年比) 輸出: (+2.0% 前月比, -6.3% 前年比) 輸入: (-0.5% 前月比, -10.9% 前年比)

1/8:

每月勤労統計: (11 月速報値)

現金給与総額: 0.0% 前年比 総実労働時間: +0.2% 前年比

景気動向指数: (11月 速報値)

先行: (103.9, -0.3 前月差) 一致: (111.6, -1.7 前月差) 遅行: (115.0, -0.4 前月差)

1/7:

建設工事費デフレータ: (10月)

住宅建築:-0.1% 前年比 公共事業: -0.5% 前年比

1/5:

食糧安定供給: (12月 607 億円, +107 億円 前年比) **新車販売台数**: (12月 307,859 台 -14.6% 前年比)

12/29:

製造業部門別投入・産出物価指数: (11月)

投入物価: -8.6% 前年比 産出物価: -3.9% 前年比



CQM(超短期経済予測モデル)

内容に関するお問い合わせは下記まで

e-mail:inada-y@apir.or.jp

米国経済(月次)予測(2016年1月)

ポイント

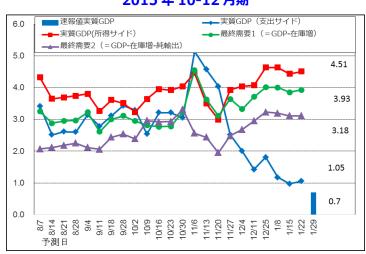
●成長率・インフレ予測の動態

- ▶2015年10-12月期の実質GDP伸び率(速報値)が0.7% とほぼCQMの支出サイドからの予測値と同じになった (図表1)。
- ▶しかし、10-12月期の月平均非農業部門の雇用増は 284,000にも達しており、2%の経済成長となった7-9月 期の174,000を大きく超えている。
- ▶図表2は過去3年間において、実質GDI伸び率が実質 GDP伸び率を大きく上回った3四半期を示している。この 3四半期の時のCQM予測も今回のように、所得サイドか らの実質GDP伸び率予測が支出サイドを大きく上回った。
- ▶すなわち、真の経済成長率(10-12月期)は0.7%より かなり高いと考えてよいだろう。これを知るには、改定 値・確報値GDPが発表される時に計算される実質GDI伸び 率と統計上の誤差をみるのが良い。
- ▶景気判断を行う場合は、経済の支出・所得・生産サイドをみて判断することが重要である。エコノミストは支出サイドからの経済成長率を重視し過ぎる傾向がある。

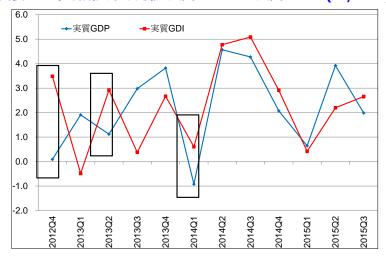
●2016年大統領選動向(1月)

- ▶2月1 日にIOWA(IA)でコーカス、9日にNew Hampshire (NH) でプライマリー選挙が始まる。
- ▶HillaryにとってIA、NHにおけるopening contestはあまり問題ではない。彼女の敵はSandersではなく彼女を起訴にまで追い詰めることのできるFBIである。
- ▶一方、共和党候補にとっては、IA、NHの選挙で勝ち抜くことが今後のモメンタムに繋がるのでこのopening contestには大きな意味がある。
- ▶ Opening contestの後で、Trump-Cruzのtwo-man raceになるのか、Rubioを含めたthree-man raceになるのか、それともBush、ChristyがRubioを引きずり下ろすことができるのかに興味がある。
- ▶もしも Bush が opening contest で良い結果を残せなかったならば、早期に辞退し the bully pulpit (公に話せる権威ある場) を手にすべきだろう。
- ▶Trump 人気の継続、Sanders のミレニアル世代への人 気は IT 時代の Social Media による"Retail Politics"時代 の到来を告げる。

図表1: 実質 GDP、実質最終需要、(%, saar) 2015 年 10-12 月期



図表 2: 経済成長率の比較:実質 GDP vs. 実質 GDI (%, saar)



2016 年大統領選挙動向(1 月): IOWA コーカス、New Hampshire プライマリーでどのように変わる今後の選挙戦

2月1日にIOWA (IA) でコーカス、9日に New Hampshire (NH) でプライマリー選挙が始まる。民主党では Hillary の NH での完敗予想、IA でも勝利が難しくなっている (図表)。共和党では候補者が IA、NH の選挙戦で如何に今後のモメンタムをつけるかが焦点になってきた。

図表: Iowa (IA)コーカスと					
New Hampshire(NH)プライマリーの支持率					
	民主党大統領		共和党大統領候補		
	Clinton	Sanders	Trump	Cruz	Rubio
IA	48%	42%	34%	23%	12%
NH	34%	56%	31%	14%	13%
出所: Fox News (1月25-26日)					

民主党: Hillary の敵は FBI

Hillary の支持率の急降下から、Hillary が IA で Sanders に負ける可能性もある。しかし、その後 South Carolina など南部にプライマリーが移れば、多数の黒人票、ヒスパニック票を獲得できる Hillary がSanders に負けることはない。Hillary が最近やたらに Obama に近づいているのも、このことを考えているからである。

しかし、彼女の E-mail 問題がますます悪化していることが、彼女の大統領候補者への最大のリスクとなっている。Hillary は Top Secretの E-mailを open linesで送ったりしたことはないと言うが、Top Secretの資料を私的な serverに保管すること自体犯罪である。更に、2010年のハイチ地震の復興委員会の共同議長に Bill Clinton がなり、多くの復興工事契約が Clinton Foundationの寄付者に与えられたことから、conflict-of-interestの問題があり、"public corruption"の可能性もあることが E-mailからも知れた。FBI は今 150 人体制で"E-mail"スキャンダルから"E-mail + Server + Foundation"スキャンダルとして捜査している。FBI 長官の James Comey は厳格であり、Hillaryを司法省に告発する可能性は高い。勿論、Hillaryを起訴するかは司法長官の Loretta Lynch が決めるわけだが、ここまで事態が進めば Hillary も大統領候補を辞退せざるをえないだろう。

共和党: IA, NH の選挙でモメンタムが変わる候補者

共和党の場合、IA、NHのOpening contestで各候補のモメンタムが形成される。"A man of 2015"で終わると思われていた Trumpが今や"a man of 2016"になる可能性がでてきた。 Trump ばかりかSanders の人気の背景には、IT 時代の Social Media が候補者と有権者との距離を非常に縮めたことがある。 Social Media をうまく使い、Trumpが直截な言い方で問題の本質を捉えるやり方は橋下徹の起こした政治旋風と通じるものがあると思われる。IT 化により、従来の握手戦法と同等な効果が、瞬時に Twitter などで得られる"Retail Politics"の時代になっている。

Trump は IA, NH の両州で勝利し、現実的な Trump 大統領へのモメンタムを加速したい。Trump は Cruz の Canada 生まれを持ち出したりし、IA で Cruz に負けていた支持率を今では逆転している。Cruz も返り討ちにあったが"New York Value"で Trump を非難したりで今やお互いは敵対関係にある。Cruz は同じアウトサイダーの Trump に

はなんとしても IA で勝ちたい。そして、Cruz の狙いは NH では最悪でも 3 位までに入り、今後の展開を a two-man race に持ち込むことである。Rubio は IA、NH の両州において 3 位以内に入り、決して Bush、Christy に追い抜かれてはならない。Rubio は今後の展開を Trump、Cruz との a three-man race にする必要がある。しかし、今の Rubio は同じ establishment の Bush、Christy などからのネガティブ TV 広告の影響をうけ支持率が伸び悩んでいる。Rubio はできるだけ早く、Hillary に勝てるのは自分のみであるというような有権者を 納得させる Line を打ち出す必要がある。

- 早期に辞退し、the bully pulpit を手にすべき Bush

28日の第7回の討論会で Bush はコンセンサスを生み出す政策を提示できる政治家として良かったが、彼のキャンペーンは going nowhere な状態になっており支持率が伸びない。IA の"No Way"候補者リストで Bush は Trump と並び最も高い 26%にもなっている。Christy、Bush は NH で Rubio に大差をつけて勝てば、Trump や Cruz を嫌悪する共和党の半数をまとめることのできる Rubio のチャンスをつぶすことができる。しかし、かつて弟子として賞賛していた Rubio へのBush サイドのネガティブ TV 広告は素晴らしかったフロリダ知事Bush の汚名となるだろう。資金潤沢の Bush サイドからの Rubio たたきは South Carolina でも繰り返されている。しかし、Bush が Third man になれば、喜ぶのは Trump、Cruz、Hillary である。

今や、共和党には多数の"actual fresh blood"が誕生している。Bush が nice guy、consensus builder であろうと、彼はミレニアル世代と 呼応共鳴するメッセージを持てない"old blood"である。もし彼が政界での将来の道を希求するのであれば、今レースから離脱するのが一番 の良策となるだろう。更に良いのは、リベラルなメディアが追及しない Hillary への FBI 捜査を重視し、Hillary にも大統領候補を辞退する ことを呼びかけることだ。そうすれば、短い期間だが Bush は the bully pulpit(公に話せる権威ある場)を手にすることが出来る。

- Disunity in summer means disaster in autumn

Bush等下位の establishment 候補者が何時までも戦いを続ければ、最終となる 6月7日のプライマリーが終わっても、どの共和党候補者も1,237の delegates を得られない可能性がある。7月の党大会で候補者が決まらない時には"Disunity in summer means disaster in autumn"の格言がある。Trump は共和党プライマリーボーターの約1/3の支持を獲得しているが、第7回目の討論会を拒否したり、彼のアンコンベンシャナルなキャンペーンが逆に彼の支持率を50%近くまで拡張出来ないことも考えられる。また、Tea Partyの同朋の Cruzを支持しない Sarah Palinのエンドースメントを受けるという Trumpの悪い判断は、例え Trumpが何らかの手段で上手く Cruzを葬り去る事が出来たとしても、その後に問題を残すだろう。

Cruz はなにしろ共和党重鎮の受けが全くよくない。メインストリームリパブリカンが Trump や Cruz に変わる代替候補者を立てるだけの時間がもてない状況を考えると、今の時点では Rubio をそれに当てるしかないだろう。仮に、共和党で候補者が夏までに決まらず、Hillaryが大統領になれば"Obama 政権"の継続、Sanders が大統領になれば"Obama"の継続となる。この時、米国だけでなく世界がどうなるかを考えると恐ろしいものがある。

2016年1月の主要経済指標

1/29:

GDP (2015Q4: 速報値)

実質: 0.69% 名目: 1.51%

GDP インプリシット価格デフレーター: 0.82%

農産物価格: (12 月: -2.2%, 11 月: 3.4%, 10 月: -9.2%)

ミシガン大学消費者センチメント

総合: 1 月: 92.0, 12 月: 92.6, 11 月: 91.3, 10 月: 90.0 現在: 1 月: 106.4, 12 月: 108.1, 11 月: 104.3, 10 月: 102.3 期待: 1 月: 82.7, 12 月: 82.7, 11 月: 82.9, 10 月: 82.1

1/28:

失業保険新規申請件数 (1/23, 278,000)

耐久財受注(12月)(速報値)

新規受注: -5.1%

出荷: -2.2%

コンピューター・電子製品: -1.0%

輸送機器: -6.7%

非軍事資本財(航空機を除く): -0.2%

カンザス・シティー連銀製造業調査: (1月:-9,12月:-9,11月:-1)

1/27:

新築住宅販売件数 (12 月: 0.544 mil., 10.8%)

FOMC ミーティング

1/26:

リッチモンド連銀製造業調査 (1月:2,12月:6,11月:-3,10月:-1)

コンファレンスボード消費者コンフィデンス

総合: 1 月: 98.1, 12 月: 96.3, 11 月: 92.6, 10 月: 99.1 現在: 1 月: 116.4, 12 月: 116.4, 11 月: 110.9, 10 月:114.6 期待: 1 月: 85.9, 12 月: 83.9, 11 月: 80.4, 10 月: 88.7

1/25:

テキサス製造業調査 (1月: -34.6, 12月: -20.1, 11月: -4.9)

1 /21:

フィラデルフィア連銀製造業調査 (1月: -3.5, 12月: -10.2)

1 /22:

コンファレンスボード景気指数 (12月)

総合指数: -0.2% 一致指数: 0.1% 遅行指数: 0.2%

中古住宅販売件数 (12月: 5.46 mil., 14.7%)

1/20

住宅着工件数(12月: 1.149 mil., -2.5%)

認可件数(1.232 mil., -3.9%) 消費者物価指数(12月:-0.1%)

コア: 0.1%

NAHB 住宅市場指数 (1月:60,12月:60,11月:62)

小売販売 (フードサービスを含む) (12月:-0.1%)

自動車を除く: -0.1%

自動車・部品ディーラー: 0.0%

生產者物価指数 (12月: -0.2%)

最終財, コア: 0.1%

中間財, コア: -0.3%

原材料, コア: -6.5%

企業在庫 (11月: -0.15%)

製造業: -0.29% 小売業: 0.16%

卸売業: -0.35%

鉱工業業生産指数(12月:-0.4%,11月:-0.9%)

NY 製造業調査(1月: -19.4, 12月: -4.6, 11月: -10.7)

1 /14:

輸入価格 (nsa): (12月:-1.2%) 輸出価格 (nsa): (12月:-1.1%)

1 /13:

連邦政府財政収支 (12月: -\$14.4 bn.)

歳入: \$349.6 bn. 歳出: \$364.1 bn.

1 /11:

労働市場状況指数 (12月: 2.9, 11月: 2.7, 10月: 2.9)

1 /8:

非農業雇用増 (12月: 292K)

財製造業 (45K)

サービス業 (230K)

政府 (17K)

失業率: 5.0%

平均時間当たり所得: \$25.24 (0.0%) 平均週当たり労働時間: 34.5 時間 (0.0%)

消費者信用增 (11月: \$14.0 bn.)

1 /6:

貿易収支 (11月: -\$42.4 bn.)

輸出: -0.9%

輸入: -1.7%

非製造業指数: 12月: 55.3, 11月: 55.9, 10月: 59.1, 9月: 56.9

1/5:

自動車販売(12月: 17.3 mil., 11月: 18.2 mil.)

1/4:

建設支出 (11月: -0.4%)

民間住宅: 0.3% 民間非住宅: -0.7%.

公的: -1.0%

ISM 製造業指数(12月: 48.2, 11月: 48.6, 10月: 50.1)

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。

・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。

・お問い合わせ先:一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690